

## 退職にあたって

小学生の頃、テレビで観ていたロボットや博士が出てくるような研究所に憧れて、漠然と研究所で働くことを夢見ていました。そして、名古屋工業大学第Ⅱ部在学中に名古屋大学プラズマ研究所に非常勤として勤め始め、昭和55年春には同研究所の技官に採用され、その夢が叶いました。最初の仕事はガラスレーザー装置における光軸調整が日課でした。その後、マルクスゼネレーター電源で発生した高電圧を極短パルスに整形して伝送路終端に出力する装置を担当しました。同電源は約3万回通電された中古を移設改造したもので、当初は古い放電用スイッチの不具合が多発し修理作業の日々でした。

年号が平成に変わり核融合科学研究所技術部職員となりLHD本体の製作に関わることになりました。最初は3次元CADを使ってメーカーが設計した各装置の形状や干渉の確認を担当しました。LHD本体の製作が始まると、ベルジャーや電磁力支持構造物などが設計通りの形状や寸法で製作されているかの確認や、真空容器用フランジや中間ステージの設計や製作確認などを担当しました。

平成10年にLHDのプラズマ実験が始まり、LHD本体

## 米津 宏 昭



真空容器の超高真空維持に関わる責任を担い、更に、実験のためのLHD本体の真空排気の年度工程を立案し、その工程に沿った真空排気装置の運転を実施してきました。プラズマ実験時には、プラズマ放電状態の目視確認も日課でした。これは意外と根気がいる仕事です。実験休止期は、真空容器及びダイバータ受熱板の点検と整備などを担当し、毎日のように真空容器の中で働いていました。

最後に、ご指導くださった研究部の先生方、そして技術部や管理部の皆様には大変お世話になりました。研究所に勤務して約40年、レーザー、高電圧、超高真空、高耐熱材による受熱、CADによる形状開発など多種多様な技術と関わることができました。そして、微力ではありましたが、LHD本体の誕生前から現在までずっとLHDのために働くことができたことを心から感謝いたします。

(技術部 装置技術課長)

## 退職にあたって

私が高校生ぐらいのある日、父親の車に乗って国道19号線の東町の交差点を恵那方面から左に曲がって進んでいると、父親が「左側の丘に名大プラ研が来るらしい。」とポツリと言ったことが脳裏に焼き付いています。それから45年あまり、縁あって核融合科学研究所に赴任してから24年が経ちました。長いような短いような気がします。

研究所生活の初めは、多治見から東山サイトに出勤、土岐サイトに移動、東山サイトに帰って多治見に帰宅という日々を過ごしました。朝夕、バスと電車に乗るためにひたすら地下鉄駅構内や東山公園の坂道を走ったのがつい先日のことのようにです。あの頃が一番健康な日々を過ごしていました。

最初の仕事は土岐市周辺の環境放射線測定と土岐サイトに設置された環境放射線監視装置(RMSAFE)の移設・増設でした。この二つの作業の主な仕事はひたすら歩いて現場に行くことです。設置当初は低温実験棟(現超伝導マグネット研究棟)にあったRMSAFEの中央監視装置を、竣

## 三宅 均



工したばかりの大型ヘリカル実験棟に移設する作業は、電気配線や通信線の経路を確保するための共同溝巡りで明け暮れました。

平成10年3月のLHDファーストプラズマの直前は、LHDの周りにRMSAFEのX線検出器を設置する作業がありました。計測技術課の作業は、本体の作業が終わった後でしたから夜なべ仕事が続いたのも懐かしい思い出です。そのRMSAFEも重水素実験の開始でやっとお役にたつことができました。

LHDの立ち上げ、自然科学研究機構の発足、そして重水素実験の開始と貴重な経験をさせていただいたことは今から思えばとても幸せでした。これも研究所を始めとする周りの方々のご支援ご鞭撻のおかげと感謝しています。ありがとうございました。

(技術部 計測技術課長)